

冬のトラブル

給湯器の凍結 予防対策

厳冬期、特に気温の下がる夜や早朝には、給水・給湯配管または給湯器内の水が凍結して、お湯が出なくなることがあります。凍結は給湯器の故障や水漏れなど様々なトラブルの要因になるので、正しい知識で冬場の配管・給湯器の凍結に備えましょう。

お湯がでない!? → 『凍結か故障か見分けるポイント』

『凍結か故障か見分けるポイント』は・・・

①お湯の蛇口から水が出るか確認するのが簡単です

台所・洗面所など水の蛇口から水が出ているのに、

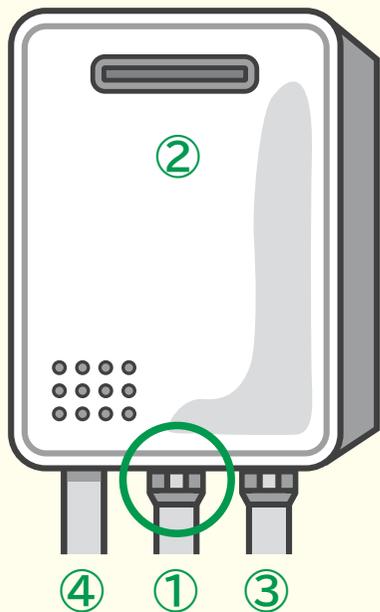
②お湯の蛇口から水が出ない場合は給湯器の凍結の可能性が高い

※お湯の蛇口から水が出ても熱くならない時は給湯器本体の故障が考えられます。



給湯器まわりの凍結しやすい箇所

水道管は地中埋設や屋内配管のため外気に接する部分がほとんどありません、しかし、給湯器まわりの配管は露出しているため外気に触れ凍結することが多く、給湯器に水が供給されないため、お湯が出ないということになります。



ふろ給湯器配管の一例

①給水配管（水道管）

最も凍結が多い配管です。給水管（水道管）は名前の通り水が通るので、外気温の影響を受けやすく、水温が下がりやすいため、凍結頻度が高いです。



特に金属製のツマミの給水栓は冷えやすく凍結する可能性が高い箇所になります。

②給湯器本体内の配管部分

とくに本体内でも緑丸印がある給水配管と接する部分は金属製のため、凍結することが多いです。

③給湯配管

お湯が通る配管なので水温が高く、給湯器本体の凍結予防ヒーターにより、凍結頻度は低いです。

④追い炊き配管

ふろ給湯器本体の凍結防止機能により、よほどの気温低下でなければ凍結することはありません。

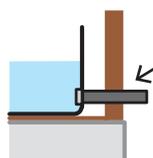
◎給湯器の凍結予防ヒーターと凍結防止機能による方法

- 給湯器には**凍結予防ヒーター**がついています。
外気温が下がると自動的にヒーターが作動して給湯器内の凍結を予防します。



…ヒーター作動中はリモコンに左のようなマークが表示されます。
(マークの表示はメーカー・機種によって異なります)

- 追い炊き機能付きのふろ給湯器には**凍結防止機能**がついています。
ポンプが自動的に浴槽の水を循環させることで追い炊き配管の凍結を予防しますので**残り湯はすてないでください**。



循環アダプター

…浴槽の残り湯を循環させるので水は捨てずに、
循環アダプターの上5cm以上ある状態にしておく。

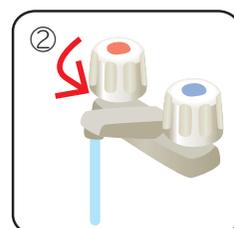
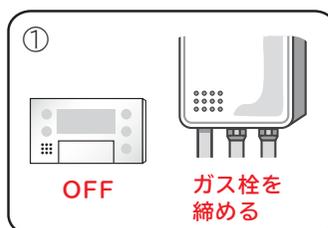
【注意点】

給湯器本体の電源を抜いたり、ブレーカーを下げてしまうと、
凍結予防ヒーター・凍結防止機能は作動しないのでご注意ください。



◎お湯の蛇口から断続的に水を流す方法

- リモコンのある給湯器の場合
→リモコンの運転スイッチを切る。
リモコンがない給湯器の場合
→給湯器のガス栓を閉める。
- お湯の蛇口から、少量の水
を流したままにする。(太さ約4mm程)



◎給水・給湯配管に保温材を取り付ける

- 配管に保温材を巻き付け、保温材が濡れないようにその上からビニールテープ等を巻く。
保温材は、市販品のほかに布等でも代用できます。
給水・給湯配管用ヒーターの巻きつけも有効な方法となります。

それでも凍結してしまった場合はどうする？

◎気温の上昇によって、**自然に解凍するまで待つ**のが最善です

- お湯の蛇口から水が出るようになったら、給湯器や配管から水漏れがないかを確認してから再度ご使用ください。

◎早急にどうしても使用したい場合には？

- 凍結部分に「ぬるま湯(30℃～40℃)」をかけたり、「ヘアドライヤーの温風」を当てたりする方法もありますが、**配管に直接熱湯をかけると破裂したり、ふき取りが不十分だと再凍結しやすくなるなど、悪化のリスクがあります**のでお勧めいたしません。

※ヘアドライヤーを使用される場合、スイッチをいれたままにしてその場を離れないでください。
火災の恐れがあり危険です。

